

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：31302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K01148

研究課題名(和文) ポスト文化財レスキュー期の博物館空白を埋める移動博物館の実践研究

研究課題名(英文) A study on the blank of museum activities after the cultural property rescuing activity and revitalization of local culture through moving exhibition

研究代表者

加藤 幸治 (KATO, KOJI)

東北学院大学・文学部・教授

研究者番号：30551775

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、東日本大震災の文化財レスキュー活動から、被災地で博物館が復興するまでの間に発生する博物館空白を、移動博物館活動によって埋めることにより、復興後の地域博物館像を検討・提案するものである。

成果としては、本研究で製作した「キュレーションバーチャルミュージアム教材」によって、文化財の保全作業、民俗調査による地域住民からの情報収集、その内容をもとにした地域住民へのフィードバックを、一連の博物館活動として行うモデルを構築した。展示は被災地と、避難者が多く暮らす都市部とで行い、比較研究を実施した。その結果を踏まえ、新たな博物館復興モデルを現在建設中の博物館の展示企画における助言として提案した。

研究成果の概要(英文)：This research examines the image of the regional museum after the Great East Japan great earthquake disaster. We planned several mobile exhibition in the disaster area. This exhibition is in a form of an exhibition that provides local residents with opportunities to see the damaged artifacts that has been restored. The purpose of this project is to research, through interviews with local residents, how they were used in everyday life. Restored artifacts represent a life of the people a generation ago with narratives and stories of local residents.

We produced "curation virtual museum system" which consolidate cultural properties, gather information from local residents through folklore survey, and feedback to local residents. The exhibition was conducted in the affected areas and urban areas where many evacuees live for comparative research. Based on the results, we proposed a new museum recovery model as advice on the exhibition plan of the museum currently under construction.

研究分野：民俗学

キーワード：文化財レスキュー 移動博物館 市民参画 東日本大震災 テキストマイニング 博物館の復興 文化におけるより良い復興 文化創造

1. 研究開始当初の背景

本研究において設定する問題は、東日本大震災で被災した地域博物館を対象に実施された文化財レスキュー活動と、現在進められている博物館復興の間にある、博物館活動上の断絶である。

研究代表者は、再建される博物館は、被災前に復旧するのではなく、災害発生時から再開館までの間に展開される博物館活動を踏まえたものであるべきと考える。災害を経て地域文化の果たす役割や、人々の歴史観、研究者の資料観などは大きく転換する。加えて、地域住民のミュージアムに対するニーズや、復興後の地域社会における地域文化への愛着の持ち方なども決定的に変化するからである。

2. 研究の目的

(1) ポスト文化財レスキュー期の活動をふまえた博物館像の提案

文化財レスキュー活動後、博物館の再開館までのポスト文化財レスキュー期の博物館空白を埋めるための移動博物館活動によって、被災後の地域社会の博物館へ求めるものや、文化財に対するイメージの変化、復興後の博物館の役割と活動モデル、ミュージアムを基点とした復興後の町づくりのモデルを提案する。

(2) 被災後の地域社会にとっての新たな民俗資料の意味創出

被災地では、多くの町や集落が津波で壊滅し、復興にあたっては住宅の再建が制限されている地域が多い。そうした地域では人々は高台に移転して地域の再生を目指す。また地域に継続的に居住できる地域においても、嵩上げ工事を経て地域の景観は全く異質なものとなる。新たな民俗資料の意味創出によって、被災地に限らない地域博物館の民俗資料の現代的な存在意義について考察する。

3. 研究の方法

本研究は、1「キュレーションバーチャルミュージアム教材」の応用、2被災地で行う移動博物館と博物館展示の効果比較、3ポスト文化財レスキュー期の活動をふまえた博物館復興モデルの提案の、三つからなり、1と2とを初年度、2年度に行い、最終年度に3に取り組む計画であった。

4. 研究成果

研究方法1については、初年度、2年度の研究においてデータの集積、データのテキストマイニングにおける技術的な課題の検討、

それらをふまえたシステムの構築とインターフェイスの構成を行った。最終年度は、その実証実験の段階にあり、被災地で開催された復興関連イベントに出展して実際に地域住民等に操作してもらい、また被災地の小学校にて小学生を対象にワークショップを実施して小学生に操作してもらうなかで、その効果や反応、課題について検討を行った。

研究方法2については、1の教材を盛り込んだ展示を、被災地と被災地からの避難者が多くくらす都市部とで実施し、比較研究を実施した。もともと、被災地と都市部での文化財に対する反応の違いが聞き書きにおいても現れていたが、それを活用した展示への反応においても違いがみられ、博物館展示の受容の差異として検討を行った。

研究方法3については、現在東日本大震災の被災地の一つである牡鹿半島に建設中の複数の文化施設の展示企画に対し、本研究の成果を踏まえ、復旧・復興期の博物館活動において集積したナラティブをどのように盛り込み、位置づけていくかについて、具体的な検討と助言を行っている。本研究の3年間の蓄積をもとに、当初の課題であった復興後の地域博物館像の提案を実際に行う段階に達し、本研究はおおむね当初の目標にいたることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

①加藤 幸治「津波常襲地における技術の断絶と継承」『人類学研究所研究論集』第4号 南山大学人類学研究所 2018年3月31日 68-87頁 査読有

②加藤 幸治「『郷土食』が生まれる契機としての災害復興：東日本大震災と食文化のセーフガード」『歴史と文化』第57号 2018年 151-164頁 査読無

③Koji, K The Story of Cultural Assets and their Rescue: A First-Hand Report from Tohoku, Fabula, Volume 58, Issue 1-2, 2017, Pages 51-75 査読有

奥本 素子・阿児 雄之・加藤 幸治「被災資料における来場者の語りの分析から見る博物館体験 テキストマイニングを用いた傾向の抽出」『博物館学雑誌』42(1)号 全日本博物館学会 2017年3月、19-35頁 査読有

Yoshizawa, G., Iwase, M., Okumoto, M., Tahara, K. & Takahashi, Q Workshop: An Application of Q Methodology for Visualizing, Deliberating and Learning Contrasting Perspectives. International Journal of Environmental and Science Education 11(13), 2016, Pages 6277-6302 査読有

宇仁 義和・加藤 幸治編「ロイ・チャップマン・アンドリュースの鯨類調査写真

鮎川 1910 年 『歴史と文化』第 55 号 2016 年 3 月 25 日、43-179 頁 査読無

〔学会発表〕(計 11 件)

① Kato, K "Recovering Museum Collection Damaged by Tsunami Disaster and Revitalization of a Disaster-hit Area" Special Lecture, Department of East Asian History and Department of Social Science of Japan, 5/16/2018, University of Zurich

② Kato, K "Build back better after the 311 Disaster: Efforts to revitalize a disaster affected region from the perspective of a museum curator" International Graduate Workshop, 5/15/2018, University of Zurich

③ 加藤 幸治 「牡鹿半島における「復興キュレーション」と歴史実践」日本民俗学会第 69 回年会グループ発表 『歴史実践と民俗学』 佛教大学 2017 年 10 月 15 日

加藤 幸治 「民具にまつわる語りを引き出すための社会関与型実践」第 150 回 日本民具学会研究会 『民具とナラティブ 東日本大震災の被災地での実践から』 東京工業大学 2017 年 9 月 30 日

加藤 幸治 「面向復興的 Curation: 被災地の重生と文化創造活動」シンポジウム「負歴史遺産、當代歴史意識と博物館」 国立台湾歴史博物館 2017 年 7 月 14 日

加藤 幸治 「東日本大震災における文化財レスキューと地域文化の"より良い復興"」特別展「災害と多摩 多摩丘陵の自然災害と多摩ニュータウン開発」特別講演会 パルテノン多摩 2017 年 5 月 14 日

加藤 幸治 「三陸・牡鹿半島における漁業と働く現場の関係性」共同研究「地域社会における関係性の変容に関する基礎的研究」第二回研究会 成城大学民俗学研究所 2015 年 12 月 19 日

加藤 幸治 「地域に展開する学びの場と博物館学芸員課程」全国大学博物館学講座協議会東日本部会平成 27 年度大会シンポジウム「地域で活動する大学生とミュージアム 仙台圏でのさまざまな取り組みから」 東北学院大学 2015 年 11 月 20 日

加藤 幸治 「牡鹿半島における震災復興と食の文化資源化」日本民俗学会第 67 回年会 関西学院大学 2015 年 10 月 11 日

奥本 素子 「モノとつながるエピソードデータベース -東北学院大学「牡鹿半島のくらし展」を通じて」日本文化財科学会大会 2015 年 7 月 11 日

加藤 幸治 「文化財レスキューから文化創造の実践研究へ 「牡鹿半島・思い出広場」の活動」災害と展示の研究会(日本ミュージアムマネジメント学会東北支部) せんだいメディアテーク 2015 年 4 月 16 日

〔図書〕(計 3 件)

① 加藤 幸治 『文化遺産シェア時代 -価値

を深掘る“ずらし”の視覚-』社会評論社 2018 年 1-192 頁

② 加藤 幸治 『復興キュレーション 語り
のオーナーシップで作り伝える“くじらま
ち”』社会評論社 2017 年 1-225 頁

③ 橋本 裕之・林 勲男編 『災害文化の継承
と創造』臨川書店 2016 年 1-315 頁

〔その他〕

*実施した展示会(計 9 件)

① 第 18 回文化財レスキュー企画展「おもひ
で写真帖 今よみがえる鮎川」石巻市指
定文化財旧観慶丸商店(石巻市) 2018 年 6
月 13 日~7 月 11 日

② 第 17 回文化財レスキュー企画展「Oh,
Aikawa 博物学者アンドリュースがみた
「鮎川」」石巻市指定文化財旧観慶丸商店
(石巻市) 2018 年 2 月 6 日~3 月 26 日

③ 第 16 回文化財レスキュー企画展「おしか
ぐらし」石巻市復興まちづくり情報交流館・
牡鹿館(石巻市鮎川) 2017 年 11 月 20 日~
2018 年 3 月 31 日

第 15 回文化財レスキュー企画展「描かれ
た神体島 日本画家・平山郁夫が描いた
「金華山の朝陽」」石巻市復興まちづくり
情報交流館・牡鹿館(石巻市鮎川) 2017 年
8 月 9 日~8 月 15 日

第 14 回文化財レスキュー企画展「インデ
ィ・ジョーンズ、鮎川を往く」石巻市復興ま
ちづくり情報交流館・牡鹿館(石巻市鮎川)
2017 年 7 月 7 日~8 月 7 日

第 13 回文化財レスキュー企画展「鯨まつ
りのにぎわい」石巻市復興まちづくり情報交
流館牡鹿館 2016 年 8 月 15 日~9 月 5 日

第 12 回文化財レスキュー企画展「クジラ
探検記 アメリカ自然史博物館所蔵・明治
の鮎川浜の写真」石巻市復興まちづくり情
報交流館牡鹿館 2016 年 8 月 11 日~14 日

第 11 回文化財レスキュー展「牡鹿半島・
思い出広場」イオンモール石巻 海の広
場 2016 年 2 月 7 日~11 日

第 10 回文化財レスキュー展「金華山と鮎
川浜の歩んだ近代」石巻市牡鹿公民館 2015
年 8 月 9~12 日

*作成した図録等(計 3 件)

① 『おもひで写真帖 -今よみがえる鮎川』
東北学院大学博物館 2018 年 3 月 31 日

② 『くじら探検記 よみがえる 100 年前の
古写真帖』東北学院大学博物館 2016 年 8
月 11 日

③ 『躍動する身体 よみがえる 60 年前の
古写真帖』東北学院大学博物館 2016 年
2 月 7 日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 幸治 (KATO, Koji)

東北学院大学・文学部・教授
研究者番号：30551775

(2)研究分担者

奥本 素子 (OKUMOTO, Motoko)
北海道大学・高等教育推進機構・准教授
研究者番号：10571838

(2)研究分担者

阿児 雄之 (AKO, Takayuki)
東京工業大学・博物館・特任講師
研究者番号：00401555